

フルオンライン大学の初年次教育科目における 協調学習と同期型オフィスアワーの試行

米山 あかね¹

1. 研究の背景と目的

サイバー大学のようなフルオンライン大学は、孤独な学習に陥りやすい学習形態であり、学生は少しの躓きでもドロップアウトしやすい傾向にあると言える。そのため、早い段階で学生には学習に必要な知識とスキルを身に付けさせるとともに、教職員の支援を得やすい環境や、学生同士で交流できる機会を持たせる工夫が必要である。

2007年に開学した本学では、2012年度秋学期に開設された初年次必修科目「スタディスキル入門」内での継続的な取り組みのほか、全学的なドロップアウト対策により、大幅にドロップアウト率を低減させることができてきている¹⁾。一方で、近年は入学者の属性傾向に変化が生じており²⁾、若年層学生への指導・支援の強化が求められている。2012年度秋学期・2013年度春学期の「スタディスキル入門」を対象に行った野木森・米山(2014)の調査では、学生の属性による傾向やコミュニケーションのハードルについて示唆しており、特に増加する若年層への対応を検討するに当たり重要な観点であると考えられる。

本稿では、2021年度春学期・2021年度秋学期に行った「スタディスキル入門」内のアンケート調査結果について、過去調査を比較対象としつつ分析を行い、改めてフルオンライン大学での初年次教育科目の協調学習の成果と課題について考察する。また、同科目において必須課題とは別に、2021年度春学期・2021年度秋学期に協調学習の一環として企画した同期型オフィスアワーの試行結果と課題についても併せて報告する。

2. 「スタディスキル入門」の科目の目的とディベート課題

「スタディスキル入門」は、新入生に必要な4つの知識・技能(テクニカルスキル/アカデミックスキル/マネジメントスキル/コミュニケーションスキル)の基礎を身に付け、本学で学び続ける力を育成することを目的に開設された初年次教育の必修科目である。科目の中では、LMS(Learning Management System)の操作方法や課題の提出の仕方と注

¹ サイバー大学 IT 総合学部・准教授、インストラクショナルデザイナー

意点のほか、掲示板やメールでのオンラインコミュニケーションの仕方と注意点、レポートの取り組み方や情報検索の仕方等を扱っており、新入生に最初に受講すべき科目として案内している。本科目は本学の他の演習科目と同様に、スライドとビデオの同期した授業コンテンツをオンデマンドで配信し、各課題についても各学生は非同期で取り組む形式をとっている。

本学の LMS には、学生が教職員や他の学生と掲示板上でディスカッションを行う機能「ディベート」が備わっており、本科目では早期に学生が本機能を体験することを目的に、全授業回 8 回のうち、第 1 回と第 3 回の計 2 回で課題としてディベートを設定している。第 1 回ディベートのテーマは「サイバー大学の LMS を使用してみた感想」であり、学生にとってはディベート課題の最初のステップになる。第 3 回ディベートでは【課題 1】「サイバー大学で学び続けるための自分なりの攻略法」もしくは「卒業後の目標」について自分の考えを書き込む」、および【課題 2】「他の学生の書き込みに対し、コメントを書き込む」の両方を行うことを課している。第 1 回ディベートでは自分の意見を投稿すれば完了だが、第 3 回ディベートでは自分の投稿をした後に他の学生の投稿を読んだ上で返信することを課している（自分が投稿しなければ他の学生の投稿は表示されないようにシステムで設定している）。第 3 回ディベートは学生同士の相互コメントという第 2 のステップであり、高年次の科目における議論等の応用的な課題に取り組む上での基礎となる。

ディベート課題に関しては、若年層学生の増加を受け、本科目では学生の属性を考慮したグループ分けを 2021 年度春学期より導入している。多様性が本学の特徴ではあるが、本科目はあくまで学生にとって入口となる科目であるため、学生同士で親近感を持たせ、投稿のハードルを下げることを重視した。

3. ディベート課題に関するアンケート調査の概要

「スタディスキル入門」を 2021 年度春学期・2021 年度秋学期に履修した新入生は、それぞれ 921 名、451 名であった。2021 年度春学期は教員 1 名および指導補助を行う TA・インストラクター 8 名、2021 年度秋学期は教員 3 名および TA・インストラクター 10 名が配置された。

調査アンケートは、全科目に設置される「授業評価アンケート」とは別に、科目独自で期末レポートを提出完了した学生を対象に実施した。そのため、授業の途中でドロップアウトした学生や期末レポートに取り組まなかった学生は回答を行っていない。また、任意回答とし、計 19 問中 15 問を授業内の課題についての感想や、交流に関する考えを問う設問とした。

野木森・米山 (2014) の調査時の 2012 年度秋学期・2013 年度春学期のアンケートは、いずれも最終授業回 (第 8 回) の課題 (小テスト) を行う前に必須回答としていたため、該当アンケートの回答率は比較的高く、2012 年度秋学期が 73.3%、2013 年度春学期が

フルオンライン大学の初年次教育科目における協調学習と同期型オフィスアワーの試行

83.1%であった。上述の通り、2021 年度春学期・2021 年度秋学期はともに任意回答であり、2021 年度春学期の回答率は 16.3%、2021 年度秋学期は 20.6%となった。各学期の年齢層別の回答者内訳を表 1 に示す。

表 1 アンケート回答者の年齢層別内訳

	2012 秋		2013 春		2021 春		2021 秋	
10 代後半	4	5.2%	26	11.8%	49	32.7%	9	9.7%
20 代前半	12	15.6%	36	16.3%	32	21.3%	19	20.4%
20 代後半	11	14.3%	23	10.4%	5	3.3%	9	9.7%
30 代前半	7	9.1%	31	14.0%	11	7.3%	12	12.9%
30 代後半	12	15.6%	31	14.0%	14	9.3%	14	15.1%
40 代	18	23.4%	44	19.9%	25	16.7%	22	23.7%
50 代以上	7	9.1%	20	9.0%	14	9.3%	8	8.6%
無回答	6	7.8%	10	4.5%	0	0.0%	0	0.0%
計	77	100.0%	221	100.0%	150	100.0%	93	100.0%

4. ディベート課題に関するアンケート調査の結果

2012 年度秋学期・2013 年度春学期実施分については「過去実施」分、2021 年度春学期・2021 年度秋学期実施分については「今回実施」分として、以降結果を報告する。なお、今回実施分のディベート課題に関する設問は、過去実施分の設問を踏襲して作成したが、現状の LMS の機能としてそぐわない点を考慮して、選択肢「交流が生まれるきっかけとなり、良かった」を外した³⁾。

図 1・2 は「ディベートの相互コメントについてどう思うか（複数選択可）」という設問に対する学生の回答結果をグラフに示したものであり、今回実施分が図 1、過去実施分が図 2 である。いずれのグラフも「新たな気づきがあり、興味深かった」「自分と同じような苦労や悩みをもっている人がいることがわかり、共感した」という相互コメントに対して意義を見出した学生が比較的多く見られた。「クラスメイトの存在を実感でき、学習意欲につながった」と上記 2 つの選択肢を含めたポジティブな回答については、過去実施分よりも今回実施分の数値が向上している。表 2・3 は、ポジティブな選択肢を 1 つでも選んだ学生について、「普段とくにディベートが苦手」「全課題の中で第 3 回ディベート課題 2 (= 相互コメント) が最も負担に感じた」と回答した学生にそれぞれ限定してクロス集計した。

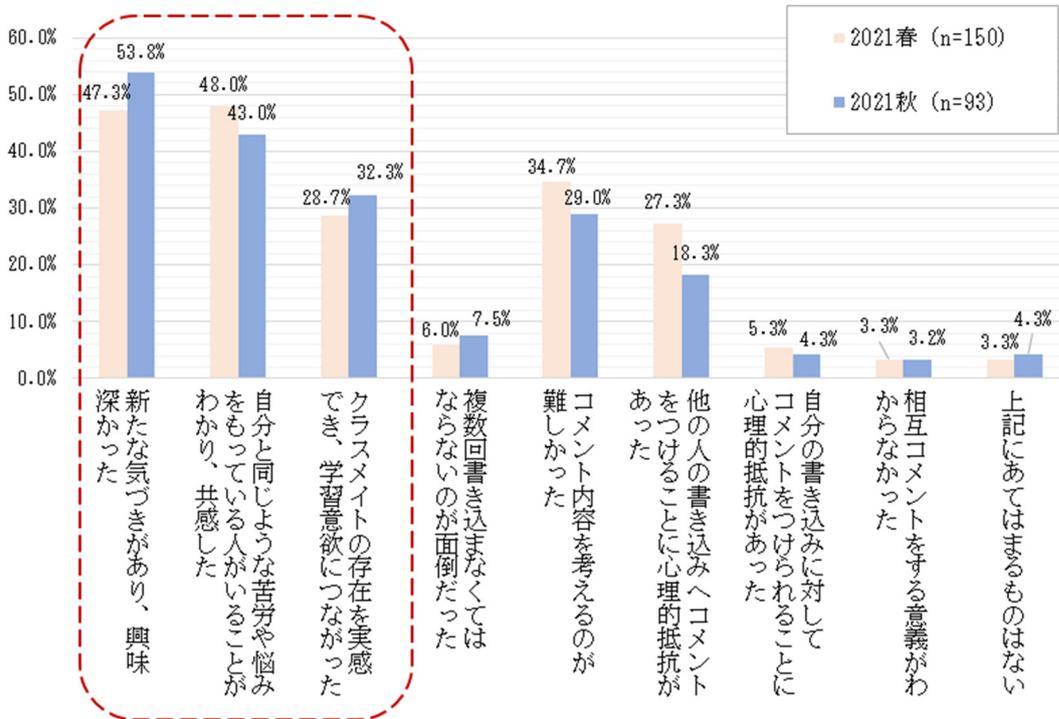


図1 ディベートの相互コメントについてどう思うか (単純集計) (今回実施分)
赤の破線はポジティブなコメントを指す

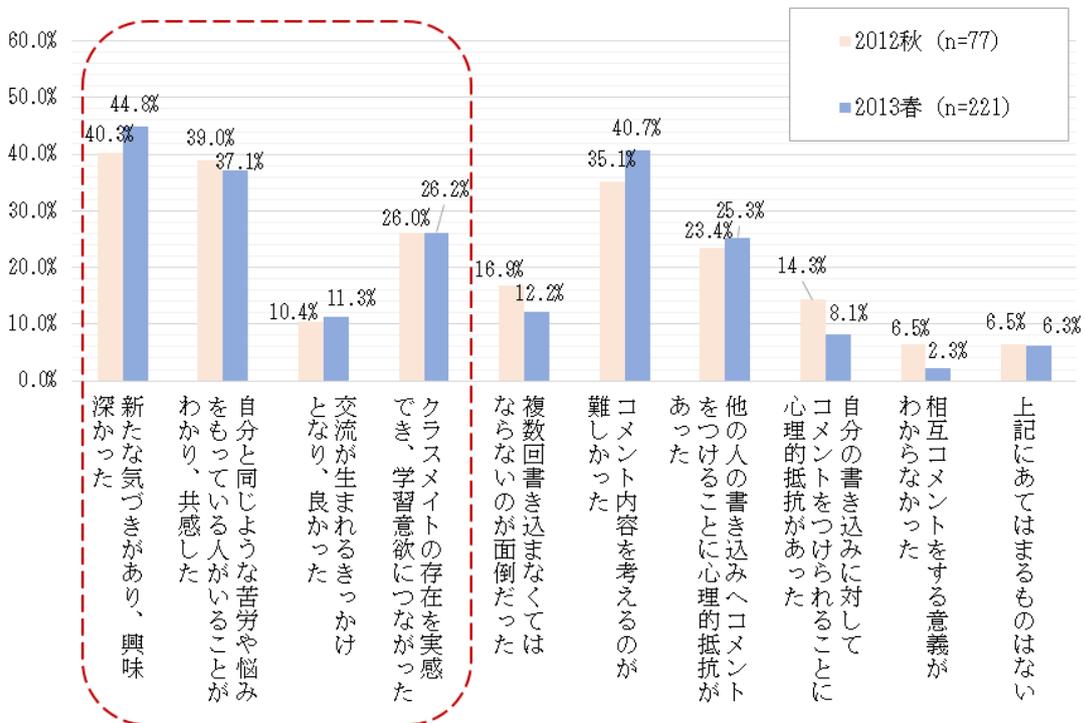


図2 ディベートの相互コメントについてどう思うか (単純集計) (過去実施分)
(野木森・米山 2014: 48 より作成) 赤の破線はポジティブなコメントを指す

フルオンライン大学の初年次教育科目における協調学習と同期型オフィスアワーの試行

表 2 相互コメントに何らかの意義を見出している学生の割合（今回実施分）

2021 春・2021 秋		ディベートの相互コメントについてどう思うか（複数回答可）		
		1つ以上のポジティブな回答もしくはポジティブなコメントあり	ポジティブな選択肢を1つも選択しておらず、ポジティブコメントもなし	計
全体	2021 春	121	29	150
		80.7%	19.3%	100.0%
	2021 秋	70	23	93
		75.3%	24.7%	100.0%
普段とくにディベートが苦手と答えた学生に限定	2021 春	48	15	63
		76.2%	23.8%	100.0%
	2021 秋	22	12	34
		64.7%	35.3%	100.0%
全課題の中で、第3回ディベート課題2が最も負担に感じた学生に限定	2021 春	28	11	39
		71.8%	28.2%	100.0%
	2021 秋	10	8	18
		55.6%	44.4%	100.0%

表 3 相互コメントにより何らかの意義を見出している学生の割合（過去実施分）
（野木森・米山 2014：48 より作成）

2012 秋・2013 春		ディベートの相互コメントについてどう思うか（複数回答可）		
		1つ以上のポジティブな回答もしくはポジティブなコメントあり	ポジティブな選択肢を1つも選択しておらず、ポジティブコメントもなし	計
全体	2012 秋	49	28	77
		63.6%	36.4%	100.0%
	2013 春	160	61	221
		72.4%	27.6%	100.0%
普段とくにディベートが苦手と答えた学生に限定	2012 秋	8	12	20
		40.0%	60.0%	100.0%
	2013 春	58	24	82
		70.7%	29.3%	100.0%
全課題の中で、第3回ディベート課題2が最も負担に感じた学生に限定	2012 秋	4	7	11
		36.4%	63.6%	100.0%
	2013 春	24	14	38
		63.2%	36.8%	100.0%

今回実施分は過去実施分と比較すると、回答者全体の中でポジティブな回答を選択した学生の割合が高まっており、特に2021年度春学期で、1つ以上のポジティブな回答を選択した学生は8割を超えた。2021年度春学期は、「普段とくにディベートが苦手」「全課題の中で第3回ディベート課題2が最も負担に感じた」と回答した学生においても、7割超が1つ以上のポジティブな回答を選択し、相互コメントに意義を見出している(表2)。

次に、相互コメントに関するアンケートのクロス集計結果は表4~7の通りである。

表4 ディベートの相互コメントについてどう思うか(苦手な課題別)(今回実施分)

21春・21秋	ディベートの相互コメントについてどう思うか(複数回答可)								
普段、特に苦手とする課題の形式	新たな気づきがあり、興味深かった	自分と同じような苦勞や悩みをもっている人がいることがわかり、共感した	クラスメイトの存在を実感でき、学習意欲につながった	複数回書き込まないのが面倒だった	コメントの内容が難しかった	他の人の書き込みへコメントをつけることに心理的抵抗があった	自分の書き込みに対してコメントをつけられることに心理的抵抗があった	相互コメントをすする意義がわからない	上記にあるものはない
ディベート(97名)	45.4%	38.1%	21.6%	9.3%	41.2%	37.1%	9.3%	6.2%	3.1%
レポート(94名)	53.2%	51.1%	37.2%	4.3%	27.7%	14.9%	1.1%	0.0%	4.3%
小テスト(7名)	42.9%	42.9%	42.9%	14.3%	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%
特になし(45名)	53.3%	53.3%	31.1%	4.4%	20.0%	11.1%	4.4%	4.4%	4.4%
全体(243名)	49.8%	46.1%	30.0%	6.6%	32.5%	23.9%	4.9%	3.3%	3.7%

表5 ディベートの相互コメントについてどう思うか(苦手な課題別)(過去実施分)
(野木森・米山 2014:50より作成)

12秋・13春	ディベートの相互コメントについてどう思うか(複数回答可)								
普段、特に苦手とする課題の形式	新たな気づきがあり、興味深かった	自分と同じような苦勞や悩みをもっている人がいることがわかり、共感した	クラスメイトの存在を実感でき、学習意欲につながった	複数回書き込まないのが面倒だった	コメントの内容が難しかった	他の人の書き込みへコメントをつけることに心理的抵抗があった	自分の書き込みに対してコメントをつけられることに心理的抵抗があった	相互コメントをすする意義がわからない	上記にあるものはない
ディベート(102名)	40.2%	33.3%	20.6%	16.7%	51.0%	34.3%	10.8%	3.9%	5.9%
レポート(150名)	50.7%	40.0%	30.0%	14.0%	37.3%	22.7%	12.0%	3.3%	5.3%
小テスト(8名)	37.5%	25.0%	12.5%	0.0%	25.0%	12.5%	0.0%	0.0%	12.5%
特になし(38名)	26.3%	42.1%	29.0%	5.3%	18.4%	10.5%	0.0%	2.6%	10.5%
全体(298名)	43.6%	37.6%	26.2%	13.4%	39.3%	24.8%	9.7%	3.4%	6.4%

フルオンライン大学の初年次教育科目における協調学習と同期型オフィスアワーの試行

表6 ディベートの相互コメントについてどう思うか（年齢層別）（今回実施分）

21春・21秋	ディベートの相互コメントについてどう思うか（複数回答可）								
年齢	新たな気づきがあり、興味深かった	自分と同じような苦勞や悩みをもっている人がいることがわかり、共感した	クラスメイトの存在を実感でき、学習意欲につながった	複数回書き込まなくてはならないのが面倒だった	コメント内容を考えるのが難しかった	他の人の書き込みへコメントをつけることに心理的抵抗があった	自分の書き込みに対してコメントをつけられることに心理的抵抗があった	相互コメントをする意義がわからなかった	上記にあるものはない
19歳以下（58名）	46.6%	43.1%	24.1%	8.6%	44.8%	36.2%	10.3%	3.4%	3.4%
20～24歳（51名）	58.8%	43.1%	25.5%	7.8%	31.4%	29.4%	3.9%	5.9%	0.0%
25～29歳（14名）	78.6%	71.4%	42.9%	7.1%	35.7%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%
30～34歳（23名）	65.2%	52.2%	43.5%	4.3%	13.0%	8.7%	0.0%	0.0%	4.3%
35～39歳（28名）	42.9%	32.1%	17.9%	7.1%	21.4%	3.6%	0.0%	3.6%	10.7%
40代（47名）	44.7%	59.6%	40.4%	4.3%	27.7%	21.3%	8.5%	2.1%	4.3%
50代以上（22名）	22.7%	27.3%	27.3%	4.5%	45.5%	36.4%	0.0%	4.5%	4.5%
総計（243名）	49.8%	46.1%	30.0%	6.6%	32.5%	23.9%	4.9%	3.3%	3.7%

表7 ディベートの相互コメントについてどう思うか（年齢層別）（過去実施分）
（野木森・米山 2014：51より作成）

12秋・13春	ディベートの相互コメントについてどう思うか（複数回答可）								
年齢	新たな気づきがあり、興味深かった	自分と同じような苦勞や悩みをもっている人がいることがわかり、共感した	クラスメイトの存在を実感でき、学習意欲につながった	複数回書き込まなくてはならないのが面倒だった	コメント内容を考えるのが難しかった	他の人の書き込みへコメントをつけることに心理的抵抗があった	自分の書き込みに対してコメントをつけられることに心理的抵抗があった	相互コメントをする意義がわからなかった	上記にあるものはない
19歳以下（30名）	60.0%	26.7%	26.7%	3.3%	53.3%	13.3%	6.7%	0.0%	0.0%
20～24歳（48名）	45.8%	27.1%	22.9%	18.8%	50.0%	27.1%	14.6%	6.3%	4.2%
25～29歳（34名）	41.2%	26.5%	17.7%	17.7%	38.2%	35.3%	11.8%	2.9%	5.9%
30～34歳（38名）	50.0%	36.8%	23.7%	18.4%	44.7%	29.0%	10.5%	5.3%	5.3%
35～39歳（43名）	39.5%	39.5%	20.9%	11.6%	32.6%	16.3%	7.0%	0.0%	11.6%
40代（62名）	35.5%	45.2%	33.9%	14.5%	30.7%	25.8%	6.5%	3.2%	11.3%
50代以上（27名）	33.3%	66.7%	44.4%	7.4%	29.6%	29.6%	14.8%	3.7%	0.0%
無回答（16名）	56.3%	31.3%	12.5%	6.3%	37.5%	18.8%	6.3%	6.3%	6.3%
総計（298名）	43.6%	37.6%	26.2%	13.4%	39.3%	24.8%	9.7%	3.4%	6.4%

表4・5は、図1・2の「相互コメントについてどう思うか」について「普段、特に苦手とする課題の形式」の回答ごとに集計を行ったものである。小テストに苦手意識を持つ学生は若干名であり、回答比率にバラつきが生じやすいため意味を有するデータとはならない。「コメント内容を考えるのが難しかった」「他の人の書き込みへコメントをつけることに心理的抵抗があった」を選択した学生は、レポートよりもディベートに普段から苦手意識を持っている者の比率が高い傾向にあり、この点は過去実施分から変わっていない。

また、同設問の各選択肢について年齢層別に集計したものが表6・7である。過去実施分では年齢層が下がるほど、「コメント内容を考えるのが難しかった」を選んだ学生の比率が高かったが、今回実施分では19歳以下の若年層と50代以上の比率が比較的高く、中間層はあまり苦にしていまいと判断できる。そして、「他の人の書き込みへコメントをつけることに心理的抵抗があった」の回答者は20代後半から30代後半までは比率が低く、24歳以下と40代以上の比率が高いことが分かった。これは、「新たな気づきがあり、興味深かった」「自分と同じような苦労や悩みをもっている人がいることがわかり、共感した」「クラスメイトの存在を実感でき、学習意欲につながった」というポジティブな回答が、20代後半と30代前半の比率が特に高いことと対照的である。19歳以下について過去実施分と今回実施分を比較してみると、「コメント内容を考えるのが難しかった」の比率は下がったが、「他の人の書き込みへコメントをつけることに心理的抵抗があった」の比率は上がっている。なお、「自分と同じような苦労や悩みをもっている人がいることがわかり、共感した」と「クラスメイトの存在を実感でき、学習意欲につながった」の選択肢は他者とのつながりに関するものであるが、全年齢層の平均では前者より後者の数値が低い傾向にあるのは、今回実施分も過去実施分と同様であった（図1・2）。

さらに、「普段、特に苦手とする課題の形式」を職業別で集計したものが表8・9である。過去実施分では、19歳以下が大半を占める未就業の専業学生について、半数以上がレポートよりもディベートの方が苦手だと回答していたが、今回実施分の専業学生はディベートよりもレポートの方が苦手だと回答している者が多い。社会人（パートタイム、アルバイト）が最もディベートを苦手と回答している比率が高いという結果になった。

表8 特に苦手とする課題の形式（職業別）（今回実施分）

21春・21秋	普段、特に苦手とする課題の形式			
	ディベート	レポート	小テスト	特になし
現在の職業				
社会人（フルタイム）（126名）	41.3%	35.7%	2.4%	20.6%
社会人（パートタイム、アルバイト）（27名）	51.9%	37.0%	0.0%	11.1%
専業学生（68名）	35.3%	42.6%	5.9%	16.2%
専業主婦／専業主夫（3名）	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%
その他（19名）	36.8%	42.1%	0.0%	21.1%
総計（243名）	39.9%	38.7%	2.9%	18.5%

表 9 特に苦手とする課題の形式（職業別）（過去実施分）
（野木森・米山 2014：51 より作成）

13 春※	普段、特に苦手とする課題の形式			
現在の職業	ディベート	レポート	小テスト	特になし
社会人（フルタイム）（121 名）	33.9%	49.6%	1.7%	14.9%
社会人（パートタイム、アルバイト）（34 名）	44.1%	47.1%	0.0%	8.8%
専業学生（25 名）	52.0%	28.0%	12.0%	8.0%
専業主婦／専業主夫（3 名）	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%
その他（26 名）	34.6%	50.0%	3.9%	11.5%
無回答（12 名）	33.3%	58.3%	0.0%	8.3%
総計（221 名）	37.1%	47.5%	2.7%	12.7%

※2012 年度秋学期は、専業学生の母数が極端に少ない（5 名のみ）ため、本表は 2013 年度春学期に限定して集計を行った。

5. ディベート課題に関するアンケート調査結果の考察

ディベート課題の相互コメントに関して、過去実施分と今回実施分を比較すると、ポジティブな回答を選択した学生の割合が高まっていることが確認できた（表 2・3）。ただし、過去実施分と同様に、ディベート課題を苦手と感じる学生は、コメント内容を考えることへの負担感や、他者にコメントすることへの心理的抵抗を感じた者の比率が高かった（表 4・5）。年齢層別に見ると、今回実施分のうち、20 代後半と 30 代前半が相互コメントについてポジティブな回答を選択している学生の比率が高く、19 歳以下の若年層と 50 代以上はネガティブな回答を選択している比率が他の年齢層よりも高かった（表 6）。

前述の通り、2021 年度春学期からディベート課題において、属性を考慮したグループ分けを導入したにも関わらず、今回実施分では他者にコメントすることへの心理的抵抗を感じた若年層の比率が高まっている点は注意を要する（表 6）。引き続き、こうした社会経験の少ない学生への対応を検討する必要がある。

19 歳以下が大半を占める専業学生では、苦手な課題としてディベート課題よりもレポート課題を選択した比率が高まっていることが注目される（表 8・9）。この要因については明確ではないが、近年の若年層は大学入学前に自分用の PC を持っていないことがあり、レポート課題に必要な Word や Excel といった Microsoft Office のソフトウェアの操作が不慣れな者もいること、また「スタディスキル入門」のレポート課題もそうしたソフトウェアの操作が必須であることから、ディベート課題よりもレポート課題の方が苦手と選択した若年層が一定数いた可能性がある。

6. 同期型オフィスアワーの試行

第2節で述べた通り、「スタディスキル入門」は授業コンテンツをオンデマンドで学生に配信し、学生は非同期で各授業回の課題に取り組む形式をとっている。前節までに述べたディベート課題もその一部であり、「場所や時間など個人の環境や条件を問わず、勉学に意欲のある多くの人に幅広く質の高い学修の機会を提供」という本学の建学の理念に基づき、初年次教育の必修科目という位置付けから、同期型で必須の課題を設定することはできない。一方で、本科目を受講した一部の学生から、同期型での教職員とのコミュニケーションや学生同士の交流を求める声が上がってきていた。同期型のオンラインツールを使用して、教職員あるいは学生同士で学習を継続するためのアドバイスや情報交換を行うことにより、本科目において育成を目指す4つの知識・技能(テクニカルスキル/アカデミックスキル/マネジメントスキル/コミュニケーションスキル)の強化が期待できる。特に、同期型のオンラインコミュニケーションは非同期型のディベートとは異なる能力が必要なため、これまで経験したことの無い学生には新鮮かつ重要な体験になる。これらの点から、2021年度春学期と2021年度秋学期に、同期型のオフィスアワーを任意参加で試行した。

開催概要は、表10の通りである。参加者の募集方法は、科目内の「お知らせ」掲示板やメールで周知を行い、Googleフォームでの事前申込制とした(初回のみ飛び込み参加も可とした)。対象は本科目を履修した正科生とし、開催回ごとに曜日や時間帯を若干変更し、学期に1回ずつ未成年入学者に限定した回を設け、すべてZoomで実施した。いずれの学期も2回目の申込者が最も多いが、最も参加率が高いのは1回目であった。未成年入学者限定の回は少人数での開催となった。

タイムテーブルとしては、初回のみ科目担当教員のレクチャーで半分の時間を取っていたが、ディスカッションの時間が不足したため、2回目以降はレクチャーおよび事前受付の質問への回答時間を10分程度に短縮した。参加者が一定数を満たさなかった場合を除き、Zoomのブレイクアウトルームを使用し、少人数でのインタラクティブなディスカッションの時間をメインとする構成とした。ディスカッションでは、学習を継続するために自身が工夫していることや、資格試験に関する情報と学び方、自身の目標等をテーマとし、それぞれ話したいテーマを選択させ、ブレイクアウトルームで部屋分けを行った。各部屋は教職員をファシリテーターとして配置し、最初に自己紹介のアイスブレイクをした後に、各テーマについてディスカッションし、教職員から本学での学びに関わる具体的なアドバイスや指導を実施した。各回の参加者は少なかつたものの、多様な年代や職種の学生が集まって活発な意見交換が行われ、画一的な非同期型授業を補足する試みとして有意義な機会を提供することができたと思われる。

フルオンライン大学の初年次教育科目における協調学習と同期型オフィスアワーの試行

表 10 同期型オフィスアワーの開催概要（2021 年度春学期・2021 年度秋学期）

開催日時	対象者	事前 申込者数	参加 者数	アンケート 回答者数	開催方式（タイムテーブル）
2021 春（BR は Zoom のブレイクアウトルームを用いたディスカッションを指す）					
4 月 28 日（水） 19:00-20:00	本科目履修の正 科生	12	10	9	1. 教員のミニレクチャー（30 分） 2. ディスカッション（30 分）
5 月 27 日（木） 20:00-21:00	本科目履修の正 科生	20	12	7	1. 事前受付質問回答（10 分） 2. 前半 BR（15 分） 3. 後半 BR（15 分）
5 月 28 日（金） 12:00-13:00	本科目履修の正 科生	13	7	6	1. 事前受付質問回答（10 分） 2. 前半 BR（20 分） 3. 後半 BR（20 分）
6 月 3 日（木） 19:00-20:00	本科目履修の正 科生のうち、未 成年入学者	8	5	3	1. 事前受付質問回答（10 分） 2. ディスカッション（40 分） ※人数不足のため BR 実施せず
2021 春 延べ人数		53	34	25	
2021 秋（BR は Zoom のブレイクアウトルームを用いたディスカッションを指す）					
10 月 15 日（金） 20:00-21:00	本科目履修の正 科生	14	12	9	1. 事前受付質問回答（10 分） 2. BR（40 分）
11 月 4 日（木） 20:00-21:00	本科目履修の正 科生	20	13	8	1. 事前受付質問回答（10 分） 2. BR（40 分）
11 月 17 日（水） 20:00-21:00	本科目履修の正 科生	11	6	5	1. 事前受付質問回答（10 分） 2. BR（40 分）
11 月 25 日（木） 18:00-19:00	本科目履修の正 科生のうち、未 成年入学者	4	3	1	1. 事前受付質問回答（10 分） 2. ディスカッション（40 分） ※人数不足のため BR 実施せず
2021 秋 延べ人数		49	34	23	
2021 春・2021 秋 延べ人数		102	68	48	

7. 同期型オフィスアワーのアンケート結果

オフィスアワーの参加者には、開催後にアンケート調査を行った。参加者は延べ人数で 2021 年度春学期・2021 年度秋学期ともに 34 名で計 68 名、回答率はそれぞれ 73.5%、70.6%である。

全般的な満足度は「満足」「やや満足」を足すと 95.8%、「交流として十分だったか」という質問については「十分交流できた」が 47.9%、「もっと交流したかった」が 52.1%と

なった。「今後も参加を希望するか」については、「参加を希望する」が 97.9%となった。

フリーコメントでは⁴⁾、「イベントがあることにより学修のモチベーションにつながっている」「皆さんが素晴らしく、私ももっと頑張らないかと思ひ、少し凹んでしまいましたが、このような素晴らしい皆さんと同一線上に立てているだけでもありがたいと思ひ、邁進しようと思ひました」「ちょっとした悩みや疑問を共有できたことが良かったです」「第一に楽しかった。第二に交流会でなければ得られない情報を入手することができとても助かった。第三に、今後ともこのような機会があると良いと強く思ひます」といった純粋に交流できたことへの喜びや、他の学生と自身を比較し奮起する声等が寄せられた。また、「先生や他の学生がどのように自己紹介しているのかなど、コミュニケーション面で参考になった」「慣れておらず質問に上手く回答できなかった」「オンラインで話すことに慣れておらず緊張した。自己紹介でいっぱいだった」など、同期型でのコミュニケーションの方法に関する気づきを得ている学生がいることも分かった。一方で、「コロナ禍で難しいが、対面の交流がしたい」「時間帯が家族の食事時で困った」など、対面での交流を望む声、開催時間帯への配慮を求めるコメントが確認された。また、未成年入学者限定の回では、今後の開催について「今回と同様に少なくとも 担当教員、TA 一人以上の方にルームを仕切ってもらい生徒が話した内容を担当教員、TA からの目線の考えも聞きたいです」といった、学生同士の自由な交流というより、今回のように教職員の指導下での交流を求めている声も確認された。これらの声を今後の取り組みに活かしていくことが重要である。

8. まとめと今後の課題

初年次教育科目「スタディスキル入門」におけるディベート課題に関するアンケートの調査結果から、今回実施分では相互コメントに意義を見出し、ポジティブに受け止めている学生が 7~8 割程いることが確認できた。ディベート課題への心理的ハードルを下げることを目的として、2021 年度から属性を考慮したグループ分けを導入したが、今回実施分では 19 歳以下の若年層が他の年齢層よりも、「他の人の書き込みへコメントをつけることに心理的抵抗があった」を選択した者の比率が高かった。この結果を受けて、若年層への対応を引き続き検討していく必要がある。

同期型オフィスアワーは 2021 年度春学期・2021 年度秋学期に試行したが、開催数 8 回に対し参加者延べ人数 68 名、平均 8.5 名という結果である。履修者数と比較すると少ないため、同期型で教職員や他の学生との交流に意義を見出している学生や、予定を調整して参加できる学生数には限りがあると判断できる。しかし、本科履修の新入生全体を対象としたアンケート結果では、参加希望者が半数程にもものぼるため (図 3)⁵⁾、多くの学生は参加してみたい気持ちはあるように思われる。今回は平日のみ開催していたため、今後は土日を含めて開催日時を検討するとともに、学生に向けて同期型オフィスアワーに参加する意義を広く伝えていく必要がある。

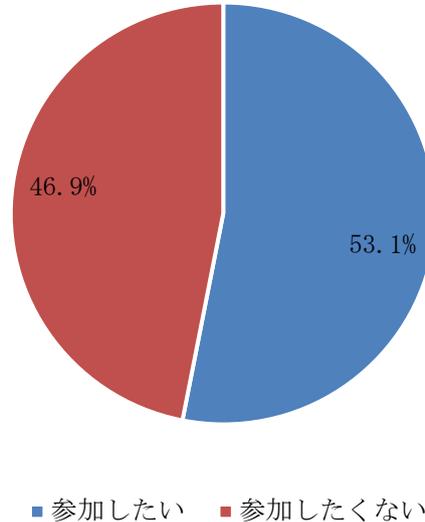
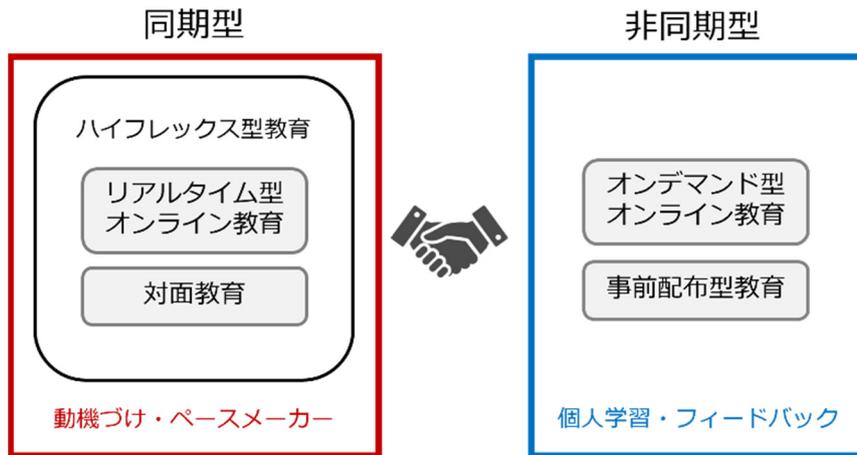


図3 同期型オフィスアワーに参加したいか (n=243)

本科目では、新生が身に付けるべき4つの知識・技能の強化のため、協調学習の一環として同期型オフィスアワーを試行した。いつでも・どこでも学習できる環境を提供している以上、全ての学生に同期型オフィスアワーに必須で参加してもらうことは困難である。しかし、本学での学びの入口である本科目で参加することの意義を周知し、参加しやすい形で同期型オフィスアワーを開催することが、他の科目での、より科目内容に踏み込んだ同期型の学習の機会へとつながると考えられる。

鈴木（2021）は、同期型と非同期型を上手く組み合わせ、学生の自律性を育てることの重要性を説いている（図4）。本学は、非同期型の授業コンテンツや課題を授業の主体として開学以来取り組んできた。それが今、インターネット環境の整備やデバイスの進展、同期型のコミュニケーションツールの普及を受け、オンライン上での同期型教育にも着手できる段階に来たと言える（図5）。非同期型教育を主軸に置きつつも、同期型のオフィスアワーや補足講義を十分に活用することで、学生に多様な学びの機会を提供し、自律性と協働性を備えた人材育成に貢献することが、魅力的な大学への発展につながると期待される。



同期型の教育と非同期型の教育を
どのように効果的に組み合わせるのが大事！

反転授業：講義動画の事前視聴+確認クイズ
対面では講義よりも演習・実習で実力アップ

図4 同期型教育と非同期型教育の組み合わせ (鈴木 2021 : 78 より作成)

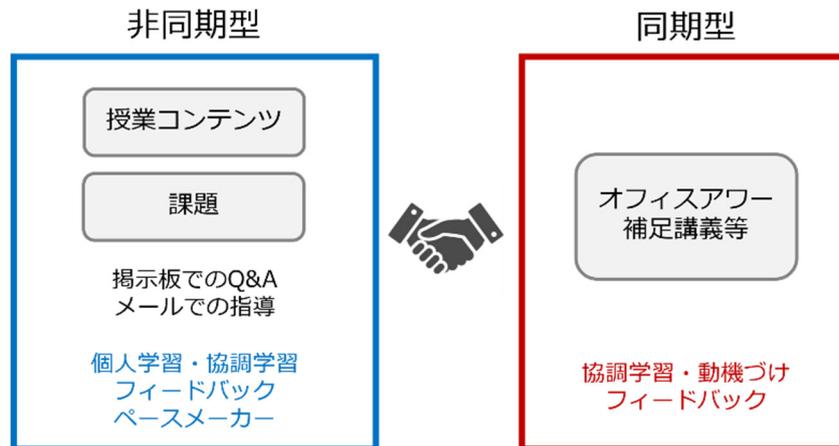


図5 サイバー大学における非同期型教育と同期型教育の組み合わせ (筆者作成)

フルオンライン大学の初年次教育科目における協調学習と同期型オフィスアワーの試行

注

- 1) サイバー大学 『令和元年度 大学機関別認証評価 自己点検評価書[日本高等教育評価機構]』、2019、p. 31.
- 2) 「IT 総合学部では 20～40 代の有職社会人が主な学生層ではあるが、近年は 10 代から 20 代前半の若年層や、主婦層を含む女性の入学も増加傾向」となっている。詳細は下記の自己点検評価書を参照。
サイバー大学 『令和元年度 大学機関別認証評価 自己点検評価書[日本高等教育評価機構]』、2019、p. 5.
- 3) 2012 年度秋学期・2013 年度春学期に使用していた LMS は、ディベート課題から投稿者にメッセージを送る機能が用意されていたが、2021 年度春学期・2021 年度秋学期に使用している LMS では当該機能はなく、またメールアドレスも個人情報の保護に鑑みて学生同士では直接見えない仕様としている。実質的にディベート課題を通じてプライベートな交流が生まれるきっかけとするのは難しいと考えられるため、2012 年度秋学期・2013 年度春学期に実施した相互コメントに関するアンケートの選択肢「交流が生まれるきっかけとなり、良かった」は外すこととした（図 1、表 4～6 が該当。過去実施分も比較のため表から削除している）。
- 4) 以降すべての抜粋コメントは、2021 年度春学期または 2021 年度秋学期の、同期型オフィスアワーに参加した学生を対象としたアンケート自由記述欄から引用している。
- 5) 第 3 節から第 5 節までで扱ったディベート課題のアンケート調査と合わせて、同期型オフィスアワーに参加したいか否かを「スタディスキル入門」の履修者に尋ねた。

参考文献

- 鈴木克明 2021：「大学教育の新たなブレンド型モデルの構築に向けた提言」『第 46 回教育システム情報学会全国大会（オンライン）発表論文集』、pp. 77-78.
- 野木森三和子、米山あかね 2014：「第 6 章 フルオンライン大学の初年次教育科目における協調学習の取り組みと効果」『e ラーニング研究』第 3 号、pp. 43-53.